



〒104-0044
 東京都中央区明石町10-1
 聖路加国際大学礼拝堂
 TEL 5550-2416 (日曜)
 TEL 5550-7043 (平日)
 FAX 5550-7070
 E-mail: chapel@luke.ac.jp
 URL: <http://nssk.org/tokyo/church/luke>



チャペルの聖器
 左：Tokyo Army Hospital 時代のチャリス（ぶどう酒を入れる器）とパテン（聖別されたパンをのせる皿）
 右：シボリウム 信徒用パン（ウエファース）を入れる器

聖書に学ぶ会

- 第1・第2日曜日 午後 聖書を読む会
 - 第1・第3木曜日 午前10時 新約聖書
 - 第2・第4火曜日 午後5時30分 旧約聖書
- 場所…旧館2階 プライベートルーム
 日程・場所変更の場合があるため事前にご確認ください。

巻頭メッセージ

降臨節（アドベント）に想う

礼拝案内

月・火・木・金曜日

■ 午前8時30分 朝の礼拝 トイスラーホール

水曜日

■ 午前8時30分 聖餐式 トイスラーホール

※第2水曜、第3火曜、第3水曜の礼拝は午前8時45分～

日曜日

■ 午前7時 聖餐式 トイスラーホール

■ 午前10時 日曜学校礼拝 臨時チャペル

■ 午前10時30分 聖餐式・説教 臨時チャペル

■ 午後5時 夕の礼拝 トイスラーホール

チャプレンメッセージ

降臨節（アドベント）に想う

司祭 バルナバ 関 正勝

年の終わりが近づいています。教会の暦は降臨節（アドベント）を迎えて新しい年の始まりを刻みます。四週間からなる降臨節は、キリスト教の信仰の中心であるイエス誕生の喜びをこの世界に、そしてわたしたち一人ひとりのうちに現実のものとする、待望の日々であると言えます。イエス誕生の喜びは、彼がもたらした救いの完成・成就への約束を實現するためにイエスが再び来られることを待望する信仰の根底をなしています。イエスが再び来られるという終末論に基づく再臨の信仰は、キリスト教信仰の核心には神による世界と人々の審判や裁き、また滅びではなく、すべての存在が神によって創造された存在（掛け替えのない存在）として、その本来の人間としての尊厳ある姿を回復し、實現することが神によって期待されていること。他ならないでありましょう。

待降節とも言われる降臨節ですが、その新しい時の実現までの、悲しみや苦しみをそして不安のあるいまを生きているわたしたちの日々を第一主日の福音書（ルカ福音書二十一・二十五―三十一）は、天変地変や、自然界の木々の芽生えなどの現象に重

ね合わせて、やがてそれらの日々は変わり新しくされる、と語ります。「このようなこと（「太陽に、月に、星に徴が現われる」……）が起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ」と。わたしたちの日々の生活は、失われることが多く、傷つき易く悲しむ、不安な日々が現実です。おまわず、うつむきたくなり、希望を失いがちです。しかし、イエスの誕生とその生涯にこめられた神の意志はすべての神の被創造（者、もの）が失われることはない、と宣言しています。わたしたちの希望の根拠は、空しく根拠の無いものではなく、幼子イエスが誕生したという既に現実となつた事実根拠に根差しています。

「身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ」。降臨節のこの語り掛けは、困難な現実のただなかで失望しがちなわたしたちの小さく弱い心を奮い立たせられるに違いないと、わたしは信じます。そしてわたしたち一人ひとりを勇気をもって希望し、待望する人間へと作り変えてくれると信じます。